

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和 5 年度 第 1 回高松市文化芸術振興審議会
開催日時	令和 5 年 8 月 2 2 日(火) 1 9 時 0 0 分～ 2 1 時 0 0 分
開催場所	高松市役所 3 階 3 2 会議室
議 題	(1) 高松市文化芸術振興計画に掲げる事業の取組状況について (2) 高松市の文化芸術に関する市民アンケート調査について (3) 第 3 期高松市文化芸術振興計画の素案の概要について
公開の区分	■ 公開 □ 一部公開 □ 非公開
出席委員	青山委員、鹿庭委員、鎌田委員、島田委員(副会長)、多田委員、橋本委員(会長)、三木委員、水嶋委員、若井委員 計 9 人 (欠席 6 人 甘利委員、金川委員、木ノ下委員、北岡委員、田中委員、林委員)
傍 聴 者	1 人 (傍聴席 4 人程度を確保)
担当課及び連絡先	高松市文化芸術振興課 0 8 7 - 8 3 9 - 2 6 3 6

審議経過及び審議結果
<p>会議を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。</p> <p>冒頭、高松市文化芸術振興審議会規則第 2 条第 2 項の規定に基づき、委員の互選により、橋本委員が会長に選任された。</p> <p>会長は、同条例第 2 条第 2 項の規定に基づき、島田委員を副会長に指名した。</p> <p>市長から次期高松市文化芸術振興計画の策定について諮問がなされた。</p> <p>審議会の公開・非公開について審議がなされ、公開の決議がなされた。</p> <p>会議を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。</p> <p>(1) 高松市文化芸術振興計画に掲げる事業の取組状況について</p> <p>令和元年 5 月に策定にされた「第 2 期高松市文化芸術振興計画」に掲げる事業の取組状況について事務局から説明し、次のとおり意見があった。</p> <p>&lt;文化芸術プラットフォームの構築について&gt;</p> <p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化芸術プラットフォームの完成はいつ頃になるのか。</li> </ul> <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 6 年度に専門人材の雇用等地域アーツカウンシル機能を高松市文化芸術財団に付与する準備を行い、令和 7 年度に完成予定である。</li> </ul>

<市美術館エントランスホールにおける作品展示について>

(委員)

- ・昨年度と比べ今年度の予算が大幅に増額となっている理由は。

(事務局)

- ・本年度は開館35周年ということもあり、エントランスホールにて、ある程度大規模な展示を行うため、予算が増額となっている。

(2) 高松市の文化芸術に関する市民アンケート調査について

令和5年5月～6月に実施した市民アンケート調査の結果について事務局から説明し、次のとおり意見があった。

<文化芸術活動をしていない理由について>

(委員)

- ・問11-5で文化芸術活動をしていない理由の第2位に「参加したい活動が身近にない」とあるが、どんな活動に参加したかったのか情報はるか。

(事務局)

- ・アンケートの項目がなく、今後、アンケートを実施する際には追加したい。

<オルタナティブスペースについて>

(委員)

- ・問17でオルタナティブスペースについての設問があるが、どのようなものか説明はしているのか。

(事務局)

- ・アンケートの質問用紙に注釈でオルタナティブスペースの意味について記載している。

<市民の文化芸術活動がもっと盛んになるために、市民や文化芸術団体、企業などの民間が行うものとして何が重要だと思いますかの間について>

(委員)

- ・問14で「観覧・鑑賞の機会の提供」の割合が高いが、何を求められていると理解しているか。

(事務局)

- ・コロナ禍で文化芸術を鑑賞できなかったため、このようなアンケート結果になったと考えている。コロナ禍前のアンケートでも、同様の結果であったため、次回アンケートでは、何が求められているか等も踏まえたい。

<市施設の使用回数について>

(委員)

- ・問16で各施設の使用回数について「0回」の回答が多いが、利用者を増やす方策等は考えているのか。

(事務局)

- ・一定の稼働率はあるため、特定の方の使用が多いと推測する。アンケート期間がコロナ禍であったため使用回数が低迷していたとも考えられるが、今後受益者負

担の観点に基づく使用料等の見直しと併せて、稼働率の向上と利用促進に努める。

(委員)

- ・市施設の事業について、何かに特化した方針があるか。施設の特性に沿った企画と家族や子どもを対象とするなど集客を狙える企画の両方があればよい。

(事務局)

- ・一定の方向性はあるが限定はしてはならず、子どもも楽しめるような企画も含め幅広く展開している。

<文化芸術活動をした人の割合について>

(委員)

- ・コロナ禍の調査にしては健闘した数値と考える。しかし、そのことを踏まえても、文化芸術活動をした人の割合が少ないが、この結果を次期計画に生かすという認識でよいか。

(事務局)

- ・御認識の通り。御意見をいただきながら目標値を決めていきたい。

<「文化芸術活動が盛んなまち」だと思ふ人の割合について>

(委員)

- ・市を文化的だと感じている人が多いのは、屋外の催しに触れたからと考える。施設に来てもらうためにも、アウトリーチと連動できることを考えていけたらよいのでは。例えば商店街の決められた場所で、一般の人が文化芸術活動に出会える機会をつくるなど。

(事務局)

- ・アウトリーチは実施しているところであるが、御意見のような取組みが日常的になればよいと考える。

<情報発信について>

(委員)

- ・高松市美術館の所蔵品はよいものがたくさんあり、県外にも貸し出されているといったことも市民に伝わればよい。

(事務局)

- ・国内外の展示によく貸し出されるほど貴重なものもあり、公開だけでなく、広く周知していきたい。

(3) 第3期高松市文化芸術振興計画の素案の概要について

第3期高松市文化芸術振興計画の素案の概要について事務局から説明し、次のとおり意見があった。

<施設の活用について>

(委員)

- ・アンケートから使用率の低い施設があるということが見えるが、育むという視点でこのような場を作品展示や制作の場として活用できるように次期計画に組み込んでどうか。

(事務局)

- ・次期計画に組み込めるか検討する。

#### <情報発信について>

(委員)

- ・SNSの強化だけではなく、地域と連携した情報発信に取り組んでどうか。
- ・一元的に文化芸術に関する情報を収集できる取組をしてはどうか。

(事務局)

- ・アンケート等でも情報発信の重要性が見えたところであるので、情報発信の強化を検討していきたい。

#### <連携について>

(委員)

- ・他市や海外等との連携を重要視する必要があるのではないか。

(事務局)

- ・次期計画に組み込めるか検討する。

#### <文化芸術活動を始めようとしている若年層への支援について>

(委員)

- ・文化芸術活動を始める若年層の育成のために、活動の場の提供だけでなく、活動方法の助言等の支援が必要ではないか。

(事務局)

- ・現在構築している地域アーツカウンシルがその役割を担うことができると考えている。

#### <計画の評価・進行管理について>

(委員)

- ・PDCAサイクルは30年以上前から提唱されており、別の推進体制があっても良いのではないか。

(事務局)

- ・次期計画に組み込めるか検討する。

#### <高松版文化芸術プラットフォームについて>

(委員)

- ・アーツカウンシルはどのような仕組みとなるか分かりにくい。専門人材の選定も難しい。元々のアイデアのとおり、高松らしさを自由に気楽に話し合っプラットフォーム構築を進めていくのがよい。

(事務局)

- ・気楽に意見を出していただく場としては、プレイヤーズ・プラットフォームとし

てこれまで活動してきたが、今後も継続していく。アーツカウンシルが核にはなるが、プレイヤーズ・プラットフォームも含んだ形が高松版文化芸術プラットフォームとなる。専門人材は、専門知識を持ちつつ、皆の意見を吸収して伴走ができる人を想定。行政だけでは支援に限界があり、助成金の支出や場所の提供だけではなく、行政ではできていなかった、共に走りながら考え、人と人を結びつける仕組みがアーツカウンシルであり、本市の文化芸術の推進に繋がるものと考ええる。

(会長)

- ・ 専門人材は、市と連携してプラットフォームをまとめられる人が理想で、複数人必要。特徴あるものとするために、プラットフォームで活動する人たち全員が協力できるような体制を組んでいく必要がある。ざっくりばらんに議論していく中で、一番理想的な形を探していければよい。

<文化部活動の地域移行について>

(委員)

- ・ 方針や条件、対象などは。
- ・ これまでの教員以外の人が行ってきた平日放課後の活動はどうなるか。
- ・ 部活動を希望する教員もいるが。

(事務局)

- ・ 本市の場合、まず休日の部活動を地域に移行する考え。教育委員会が検討委員会を設置し検討中。教育委員会において、休日に行われる文化部の活動の在り方等を考えている。教員の負担軽減の観点もあり、地域の実情を把握しない状態での一律移行は難しい。昨年度スポーツ部のモデル事業を実施しており、今年度は文化部もモデル事業を実施する予定。
- ・ 当課も連携したい。

<サンクリスタルの改修について>

(委員)

- ・ 工事はいつからいつまでか。図書館は開業のままか。移動図書館は。

(事務局)

- ・ 基本構想での計画は、令和7年度休館、令和8年度再オープン。施設は休館するが移動図書館は継続する予定。

以上